

「ココロ合せ♡チカラ合せ」 防災ネットワーク通信

あなたとご家族の生命を守る知見を備えましょう

向日葵はわが街のシンボル



2024(令和6)年3月1日/第80号

私ども防犯防災部は風早北部地域住民目線で柏市防災行政のチェック役に徹します。
市長への提言を通じ柏市防災の改革・改善を目指します。

風早北部地域ふるさと協議会

災害時に大怪我をしない取組み ～シェイクアウト訓練・家具転倒防止など～

当風早北部地域内には総合病院、すなわち災害時の緊急医療に対応が可能な施設が最寄りにはなく、医師や看護師は災害発生時にこれら総合病院への招集がかかるため、最悪この地域に医療関係者がいなくなる事態に直面します。運悪く災害時に大怪我をすることで、即時に命の危険が迫り、平時で助かっていた命が助からない可能性が確実に高まります。

柏市は現状、そうした当地域が抱える危機的な状況を十分把握している一方で、抜本的な改善・対策に手をこまねいています。

前途多難な救急医療体制の構築に固執することなく、今すぐ発災してからは遅すぎる現状を先ずは直視され、災害時に市民が大きな怪我をしない取組みに対策を傾注するなど柔軟な姿勢を示して欲しいと私たちは考えます。

本号では、その具体例として、昨年9月に柏市が全市民に広く呼びかけた「シェイクアウト訓練」と「家屋内の家具等の転倒防止に関わる施策」につき、2回に分けてご案内します。ちなみに、当風早北部地域は柏市の昨年の取組みの2～3年前に、既にシェイクアウト訓練の実施を地域住民に呼び掛けています。

市内一斉でのシェイクアウト訓練の本格的実施を強く要望します

私どもが調査した結果では、昨年9月30日の柏市総合防災訓練時に市民に実施を呼び掛けたシェイクアウト訓練の実施を理解した市民が回答者全体の約1割、うち実際にシェイクアウト訓練を実施したのが約5%と、お世辞にも呼び掛けの効果は薄かったと評価せざるを得ません。市民に広く浸透するために、来年度も是非同訓練の実施を広く市民に呼び掛けていただく必要があるとともに、「任意でやりましょう」だけでは効果は期待できません。市が結果の数値にこだわり、本訓練実施の主体者になるべきです。

市役所担当部署職員の多くにやる気が見いだせない限り、明るい未来は来

ない、市の防災行政水準の後退が必至で気になり、市役所幹部や防災担当職員の責務は重大と思います。以下は太田市長への要望です。現状の防災行政を担う方々の適材適所を基本とした今年4月以降の人事刷新＝市職員の配置換えや業務体制の見直しを大いに期待します※。

※市の特定部署もしくはここで勤務する職員を批判する趣旨での申し出ではありませんことを申し添えます。

大きな家具が倒れても怪我をしない寝室の配置を再度検討しましょう

大災害発生時に怪我をしないことが本当に重要です。特に高齢者は自分で感じているよりずっと身体が動かない場合が多いのです。不幸にして大怪我をすると、前述の通り、この地域に災害発生後は医師や看護師が最悪いなくなる、病院への移動も幹線道路渋滞で難しくなることから、大怪我した方の命の危険が現実味を帯びてきます。

基本動作としては、前述のシェイクアウト訓練【下図参照】にもうたっている「むやみに動かず安全な場所に留まって揺れがおさまるのをひたすら待つ」ことが肝要です。



避難移動時は、足元が安定するよう、履き慣れた運動靴を常に玄関先に用意しましょう。夜間の震災に備え、灯りの確保も重要です。懐中電灯や携行用LEDライトを避難路付近に配備しておきましょう。

家具の転倒防止が最も重要です。仮に家具が倒れても下敷きにならないような寝所の配置は考えていますか。テレビが転倒して壊れることは、重要な情報源を一つ失うことになります。優先してテレビの固定や転倒防止を行っておきましょう。



懐中電灯のバッテリー充電や乾電池の用意も忘れずに。



次号では私たち市民が具体的に市に要望している、家具転倒防止に向けた具体的対策の内容をご案内します。